

特定非営利活動法人 日本免疫学会
平成 28 年前期 **Tadamitsu Kishimoto International Travel Award**
研究発表報告書

申請者氏名	染谷 和江	会員番号	0034452
申請者の所属・職名	慶應義塾大学 医学部 医学研究科 微生物学・免疫学教室 博士課程3年		
出席会議名	International Congress of Immunology (ICI) 2016		
発表論文タイトル	Enhanced stability of the Foxp3 expression by forced expression of TET DNA demethylase catalytic domain in iTregs		

実施結果:

この度は、Tadamitsu Kishimoto International Travel Award を賜り誠にありがとうございました。

私は、オーストラリア・ビクトリア州・メルボルンにて開催された International Congress of Immunology (ICI) 2016 (2016年8月21日～8月26日)に参加いたしました。本学会は3年に一度の大規模な国際学会であり、免疫制御ネットワークを用いた免疫治療への応用に関する、様々な演題の発表やレベルの高い議論が繰り広げられておりました。世界中から著名な研究者らが一同に会した本学会は、どのセッションも非常に聴きごたえのある内容あり、各分野における最先端の知見に触れることができました。

今回私は、Treg に関する分野において“Enhanced stability of the Foxp3 expression by forced expression of TET DNA demethylase catalytic domain in iTregs”という演題でポスター発表を行う機会をいただきました。私の研究内容では、最近発見された DNA 脱メチル化酵素である TET ファミリータンパクによるエピジェネティック制御、特に Treg における Foxp3 の発現のキーファクターである CNS2 領域を特異的に脱メチル化することによって、より安定的な Treg への分化制御および分化転換の方法を確立しております。本演題では、その方法を用いた安定化 Treg を利用した免疫疾患モデル治療実験に着手し、その成果を報告いたしました。発表を通じて、T 細胞を専門とする研究者を中心に多くの演者とのコミュニケーションを行う機会を得ることができ、拙い英語ながらも有意義な議論を行うことができました。また、研究内容について自分とは異なる視点からの意見も聞くことができ、今回の発表は今後の研究の発展においておおいに役立つことと実感しております。

最後に、このような貴重な国際学会への参加支援制度を設けてくださった岸本 忠三先生をはじめ、選考委員の先生がたに心より御礼申し上げます。また、ご指導ご推薦いただいた慶應義塾大学 医学部 医学研究科 微生物学・免疫学教室 吉村 昭彦教授に深く感謝いたします。今回の経験を生かし、自身のさらなる成長につなげられるよう精進して参りたいと思います。